

「カを合わせて」

好きな役になって 発表会に向けての練習をしているとき、ふざけて登場したイクんとJくん。セリフもよく聞き取ることができませんでした。



すると、ステージの横で出番を待っている子どもたちが2人に言葉をかけました。

ふざけたら、かっこ悪いよ。



うん、おとうさんやおかあさんに、かっこいいと見てもらえんよ。

自分たちで解決していくとする気持ちが育っていました。

Kちゃんは、友だちと一緒にフラフープ跳びをしようとしていましたが、思うように跳ぶことができませんでした。

うん、わかったよ。



Kちゃんはフラフープ跳びをあきらめませんでした。

おかあさん、わたしフラフープの練習するから待っていて。

Kちゃんは、毎日練習を重ねて、なわとびのようにフラフープ跳びをマスターしました。

Kちゃん、すごいね!



好きな役になり切った演技の気持ちが、Kちゃんのフラフープの練習への意欲につながりました。

ピョン、ピョン

本番でも友だちと一緒にフラフープ跳びを披露することができました。やりとげることができた達成感と自信が、Kちゃんのうれしそうな表情から伝わってきました。

「どきどきどっきん」

発表会当日。遊戯室は子どもたちの発表を楽しみにしている。おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、ぎゅーりと埋めつくされています。



その熱気は、もちろん子どもたちにも伝わっています。ステージに立つ前の子どもたちは、小さな胸をドキドキさせています。



保育士は、ひとりひとりにやさしく言葉をかけたり、触れ合ったりしながら、気持ちを和らげるようにします。

今度はちょっと深呼吸するよ。吸ってー。はいてー。



そして、ステージに向かう子どもたち。

発表を終えてお部屋へもどってきたときの子どもたちの表情は、晴れやかです。

やったー!!

終わった!

バンザイ!

ホッとしましたよね。

ステージの裏では、子どもたちのこのようなストーリーが繰り返されています。「頑張ったね。」「○○の所、すごくよかったよ。」といった励ましの言葉は子どもたちにとって大きな喜びと自信につながることでしよう。子どもたちの成長をこれからも温かく見守り、支援していきたいと思っています。